

平成 2 9 年度の主な事業報告

社会福祉法人王寺町社会福祉協議会

社会福祉事業

平成 2 9 年度事業計画に基づき、それぞれの重要目標に従って、住民・福祉関係者・行政機関の合意形成・調整の場をつくり、地域のさまざまな課題や住民のニーズに対応したまちづくりに取り組んできました。

1. 高齢化社会への対応の強化

- (1) 高齢者の健康保持増進、生きがい、仲間づくりの意識の高揚を図るため、グラウンドゴルフ大会（6／15・82人）（10／26・83人）、囲碁大会（2／7・16人）を開催し、延べ181人が参加、身体や頭をフルに使い、心身ともにリフレッシュされ、健康の保持増進を図られました。

生きがいと仲間づくりとして実施されているクラブ活動においては、老人福祉センターで13、老人憩の家「片岡の家」で22、合計35クラブの方々が音楽・体操・踊り等により充実した時間を過ごされました。

5月19日に文化福祉センター大ホールで開催した老人福祉大会では、約350名の方が参加されフラダンス・民踊・大正琴・カラオケなどのクラブ活動を行う方々が日ごろの練習の成果を発表され、老人クラブ会員等が相互の交流を楽しみました。

- (2) 春、のどかな集い（ひとり暮らし高齢者の集い）を地域交流センターリーベルホールで4月20日に開催し、220人の方々が参加され、民生児童委員の協力により、昼食とカラオケで楽しいひとときを過ごされました。

- (3) 11月26日に『広げよう福祉の輪・みんなしあわせに…』をテーマに社会福祉まつりを開催、高齢者・子ども・障がい者の相互の交流を図り、催しの中で温かい心のふれあいを高めることを目的に各種団体の協力を得て模擬店を開きました。また、ジュニアバンドハルモによる演奏、幼稚園児、保育園児らによる唄・楽器演奏、福祉作業所「ポエム」の皆さんによる大正琴の演奏、子ども落語、お楽しみ抽選会など、子どもから高齢者まで延べ約960人が参加され、楽しい時間を過ごされました。
- (4) 介護（認知症）予防を目的に、介護福祉士・ヘルパー資格のある嘱託職員が、地域住民や民生児童委員からの協力により、高齢者のひとり暮らしの方を訪問し、生活状況の聞き取り・確認、適切なサービス等の紹介を行い、少しでも健康寿命を延ばせるよう助言しました。

〔実人数269人・延べ人数508人〕

- (5) 文化福祉センターで、介護予防についての相談会を開催しました。

〔32件：偶数月の第3火曜〕

- (6) 「地域福祉権利擁護事業」（日常生活自立支援事業）として、判断能力に不安のある方の公的手続きの支援や金銭管理の援助等を行いました。

2. サロン活動の拡大

「サロンやすらぎ」協力のもと、文化福祉センター、みその自治会館、片岡の家の3か所でサロンを継続的に開催しました。また、自治会単位で行なわれるサロン活動の運営を支援するため助成金交付要綱を改正するなどサロン活動の推進、拡大に努めたことで、東王塚、王寺1丁目、葛下1丁目、かつらぎ、舟戸2丁目、天平台、井戸、阪奈が新たにサロン活動を始め、現在は自治会単位のサロンが10か所、計13か所で月1回程度サロンが行われています。

3. ボランティア活動の推進拡大

明るい福祉のまちづくりを進めるため、老人クラブが「社会奉仕の日」の取組として清掃活動を行いました。

そして、平成19年度以来となる手話奉仕員養成講座を開催し、今回開催した入門編には18名の受講者が参加、17名が修了され、その中から手話サークル「ハッピーサイン」が立ち上がるなど、今後のボランティア活動推進につながる人材を育成しました。

また、こども食堂支援補助金をはじめとしたこども食堂への支援を行うことによって、「こども食堂ゆきまる」「みんなのおうち」という2団体が誕生し、こどもの居場所づくり、また、世代間交流の場となっています。

◇ボランティア保険

・ボランティア活動保険加入事務	7件	139人
・ボランティア行事用保険加入事務	13件	533人

4. 福祉関係団体の健全育成

福祉関係団体に対し、国・県の実施する大会及び研修会等への参加を勧め、各団体の健全運営を助成し、自主活動・自主運営を推進しました。

5. 広報活動の強化及び会員の増強

地域における福祉活動推進の中核となる社会福祉協議会が地域に密着した福祉活動を安定して推進できるよう、財政基盤を強化し、地域住民の福祉ニーズに応えるため、関係法人に特別会員として社会福祉活動に参加していただくようお願いし、また、自治会を通じ、賛助会員の加入・会費納入の協力について呼びかけを行いました。

正 会 員	2 1 人（理事・監事、評議員）
特別会員	2 社
賛助会員	自治会
合 計	1, 3 1 5, 1 0 0 円

6. たすけあい活動の推進

（1）共同募金運動

地域及び在宅福祉の強化を目的に、10月1日から全国一斉に実施され、王寺町でも自治連合会、民生児童委員協議会及び各種団体の協力を得て街頭募金、戸別募金により募金活動を展開し、多くの方々から善意ある寄附をいただき、ひとり暮らし高齢者の集いの経費に配分しました。

平成29年度 目標額 1, 3 9 8, 0 0 0 円

募金総額 1, 5 4 4, 8 7 8 円

配分金 7 0 6, 0 7 8 円（H30 受入）

◎平成29年度配分金 6 6 5, 8 4 0 円（H28 実績より）

◎共同募金配分金事業（春、のどかな集い経費）

7 7 4, 7 3 8 円

（2）歳末たすけあい募金運動

自治連合会、民生児童委員協議会、老人クラブ連合会をはじめ各種団体の協力により街頭募金活動等を展開し、多くの方々の温かい善意が寄せられ、歳末訪問金・見舞品として該当者に配付しました。

＝平成２９年度 歳末たすけあい募金 活動実績＝

◎募金総額 456,799円

内訳 街頭募金 43,559円

各種団体等 391,618円

カレンダーバザー 21,622円

◎歳末たすけあい事業 949,900円

街頭募金用資材 24,000円

ひとり親家庭歳末訪問金

150世帯（対象の子276人） 816,000円

ひとり暮らし高齢者歳末お見舞い 109,900円

7. 生活福祉資金の貸付・相談

低所得世帯を対象とした教育支援資金、失業による生活困窮世帯に対し、再就職までの間の自立を支援する臨時特例つなぎ資金等、各種生活福祉資金の相談や申込み等の業務を行っています。

	相談件数	貸付件数
総合支援資金	0件	0件
福祉資金	0件	0件
教育支援資金	2件	2件
不動産担保型生活資金	0件	0件
緊急小口資金	1件	1件

8. やわらぎ金庫資金の貸付・生活困窮者相談

緊急・臨時的に生活資金を必要とする低所得世帯に対して、その自立を支援することを目的に、資金の貸付を行っています。

	相談件数	貸付件数
やわらぎ金庫資金	11件	11件
生活困窮者相談	5件	0件

9. 物品貸出し業務

車椅子を要介護者の外出や学生への福祉教育等の用途で貸し出しています。また、綿菓子機・ポップコーン機・みたらし団子機・鉄板台等は、自治会・子ども会などの催し時に幅広く活用いただいています。

貸出品	綿菓子機	ポップコーン機	輪投げ	みたらし団子機 たこ焼き機
件数	15	19	11	11
貸出品	氷かき機	鉄板台	車椅子	合計
件数	4	19	42	121

10. 心配ごと相談所の開設

別添「平成29年度 王寺町心配ごと相談所 事業結果」を参照

11. その他

(1) ふれあい町民のど自慢大会

世代を超えて町民相互の交流を図ることを目的に、1月20日に「ふれあい町民のど自慢大会」を開催しました。応募抽選の結果選ばれた22名の方が大ホールのステージで自慢の歌声を披露され、訪れた約490名の観客も大歓声と拍手で会場を盛り上げてくださいました。

(2) 老人福祉センター等管理・運営

老人福祉センター・老人憩の家「片岡の家」は、多くの高齢者の方々の憩いの場として、気軽に楽しく安心してご利用いただける地域福祉推進の拠点として、適正な運営に努めています。

＝平成29年度 老人福祉センター等利用状況＝

(人)

	個人利用者	団体利用者	計
老人福祉センター	5,683	3,723	9,406
老人憩の家「片岡の家」	4,355	2,532	6,887

(3) 「我が事・丸ごと」の地域づくり

国庫補助事業である「我が事・丸ごと」の地域づくり推進事業を王寺町社会福祉協議会が受託、サロン等の集う場を中心に多様な相談を「丸ごと」受け止め適切な解決法につなぐ相談体制づくりや、他人事になりがちな地域の困りごと解決を「我が事」として地域住民が主体的に取り組む意識づくりを行っています。

(4) 苦情受付処理に関すること

- ・苦情受付体制 受付担当者 1名 解決責任者 1名 第三者委員 3名
- ・苦情受付件数 0件

公益事業	なし
------	----

収益事業	なし
------	----